



じゃがたら

南流石×大平“ソウリ”泰男

2012年11月に行われた、伝説のロックバンド<じゃがたら>をリスペクトした<REBORNじゃがたら>イベントを、呼びかけ人、南流石と、世話人、大平“ソウリ”泰男(じゃがたらマネージャー)が振り返る。

文=遠藤聡明 text=Sohmei Endoh
写真=片岡一史 photo=Kazunobu Kataoka

じゃがたら:1977年3月に活動を開始。日本発のファンクバンドとして、後のクラブカルチャーに繋がるアンダーグラウンド・シーンで人気を獲得していった。中心人物は江戸アケミ。他にも、EBBY、ナベ、OTO、篠田昌巳、エマーソン北村、南流石などが在籍。1982年に発表された『南蛮渡来』は、今なお日本のファンクミュージックの最高傑作のひとつとして、多くの人に認められている。1990年1月27日、入浴中の事故により江戸が死去。バンドも解散した。

アンダーグラウンドシーンから発信された、ファンクという「踊り」のメッセージ。

「じゃがたら」は実は1度再生して
る。

2003年「じゃがたら2003
♪業をとれ!」江戸アケミ十三回忌天
国のゴールというイベントがOTOの
呼びかけにより行われた。9・11以降
の資本主義から継続可能社会への移
行をいち早く捉え、江戸アケミの言葉
を増幅するヒューマン・ピーイングと
して十分な役割をそれは果たした。

南流石は江戸アケミの急逝以後も、
ずっと実直に「じゃがたら」Vを生き続
けていた。いつの日かまた、「じゃがた
ら」Vの曲をおもいっきり踊り唄いた
いと常々口にもしていた。

3・11以降、南流石の周辺にも大き
な変化があり、いったんその希望は棚
上げされたが、彼女の潜在意識は常に
江戸アケミに願いを請うていた。想
いは江戸アケミをトリガーに經由し、流
さ知らズ、江戸アケミの旧友こだま和
文(ex:ユニットビート)、そして、盟友
EBBY(じゃがたら)へと繋がった。

南流石(以下流石) 私は凄く理解が
遅いかもしれないけど、感覚的に辿り
着ければアケミに教え続けてもらって
いるひと言ひと言が理解できると思
う。でも、2003年に、OTOが思
考していたことを完全に理解していたか
は正直よく分からない。OTOなんか
からすると私は「分かってない」って部類

だから(笑)。OTOほど深いことはで
きないかもしれないけど、私なりの形で
引き継げたいなとは以前から思っ
ていた。今回やって感じたことは、流石知
らズの人達の想いでできたということ。
それで良いんだなと思った。

大平「ソウリ」泰男(以下ソウリ) そ
うそう。それがじゃがたらなんだよ。
流石知らズは自分達の音を出していた
じゃない。だからグループは少し違っ
ただけど、そこに持ち寄ったひとりひと
りの真実を出し合ってた。それが、まさに
じゃがたらなんだよ。じゃがたらは「ス
ピリット」だから。

流石 あと、時よりEBBYのギター
がもとのじゃがたらに戻してくれたりも
あって。アケミの生き変わりのような
こだまもいる(笑)。
ソウリ こだまさんの中に「アケミは9
11と3・11を知らない」という想いが強く
あるんじゃないかと思う。体験してしま
ったこだま和文が「アケミが体験してい
たらどんな想いで唄うんだろう」という
気持ちを含めて唄ってくれたんだよね。

流石 こだまはアケミ! 私が任命!
当り代ぎってのダンサー、振り付け師
の南流石が、なぜ、自身の過去の産物
である「じゃがたら」Vにこうも深くこ
だわり続けるのだろうか?

流石 「お前はお前の踊りを踊れ」って

CLIPBOARD Interview



南流石

86年にOTO氏から誘われて「じゃがたら活動」をはじめ。3歳から踊りをはじめ、いまなお「音と踊りの関わり」を独自の感覚で探求している。現在は活動領域を国内外に広げ、0歳から100歳を対象に国境言語世代を越えた踊りの取り組みをはじめている。



大平“ソウリ”泰男

当時の内閣総理大臣・故大平正芳氏と同姓だったためアケミが呼び名を“ソウリ”と命名した。DVD「この〜もうがまんできない」の寿町ライブの撮影者であり、江戸アケミの結婚式の仲人でもある。現在、東京大学東洋文化研究所特任研究員。

アケミの言葉は衝撃的だったよね。私が踊りの仕事をしていることもあってピンポイントなかもしれないけど。私独自の解釈なので、アケミとはずれているかも知れないけど、職業的なことも含めて「お前はお前の踊りを踊れ」の厳しさを日々体感しているのね。あの日MCでも言ったけど、好き勝手に生きて「オレの生き方バンザイ」じゃないから。自由でいるにはもの凄くリスクと責任を負うじゃない。いつ踊れるようになるのかな(笑)。

流石 私、勝手にやるから(笑)。ソウリ そういつながらり方が意識の伝達というか思いの、流れなのかな？ 当事者達は「流れ」で今回ハじゃがたら解凍Vを推進しようだが、数奇な変遷の中、後の世を見通したタツセージを残し急逝した江戸アケミに触れることは、裏方をすることになった筆者にとってはまるで禁断の扉を開けるに等しかった。

流石 ソウリ、凄げ〜！ そうハ真実Vだ！ だからアケミには全面降伏なんだよ。ソウリ アケミに対してハ禁断の扉Vやハ危険物Vとかの言い回しで、アイロニーを込めたジョークでスルーしてこまかすこと自体が、いわゆる業界、社会通念、常識なんだよ。つまり現状の体制の中で、ある種のそれってこうだよな〜という自ら抑圧し合う者同士の卑屈な合意のもとから出てくる言葉の範疇。しかしハ真実Vというのは「それそのもの」だから、本来、もの凄く楽しくて、幸せなものなんだよ。

流石 ソウリ、凄い！ ソウリ 体制を維持するためのメディア報道機関の隠蔽体質は今もアケミが生きていた時代もまったく変わらな

い。アケミが言っていたことは「ハ真実Vはそんなところにはない。私がおこにいて、あなたがおこにいる空間だけがハ真実Vだ」と言っていたわけ。こだまさんも当日言っていたよね、アケミは「自由であれ！」と言っていたよ。

今、我々の前に残されたのは江戸アケミとハじゃがたらVの足跡である「言葉とグルーブ」。ちなみに「13回忌イベント」と「エド&じゃがたらお春」を手掛けたOTOは、もう次に進んでいる。ハじゃがたらVが内包しているものにも興味を持ってもらえるなら、これからはむしろそちらの動きに注目してもらいたい。

流石 どういうこと？

ソウリ 普通は、頭で意識で生きているんだけど、意識の深いところまで毎日行つてそこで繋がっているから南の日常生活もその領域の中で運ばれているよ。相手の潜在意識と繋がるといえるんなことをやるから上手いく。

流石 へ〜、凄げ〜！

ソウリ アケミ、ナベ(渡邊正巳) / 1992年迄、篠田昌巳 / 1992年迄のいる所を共有しているわけ。本来、彼らはいらんだけど3次的には手が届かない。今回もスムーズにことが運んだのはそこ繋がっているからだよ。

潜在意識で繋がる。これはけつして宗教的観念を指しているのではない。なぜなら江戸アケミは宗教ではなくリズムに救われた人だった。ハじゃがたらVを聴こう、読もう、語ろう。今を突破するために。それから……。